

## 食品総合研究所研究報告 75号 付録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.naro.go.jp/records/2987">https://repository.naro.go.jp/records/2987</a>

## 付 録

## 「食品総合研究所研究報告」の編集について

## 1 方針

- (1) 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究所 食品総合研究所研究報告（以下「研究報告」という。）には原著（報文、研究ノート及び技術報告）と学会誌等発表論文の抄録を登載する。原著は他誌に未発表のものに限る。研究ノートは新知見を含むが報文にまとめ得ないもの、技術報告は報文にまとめ得ないが食品分野の研究及び産業に寄与する有用なデータを含むものとする。
- (2) 原著論文については、編集委員が選定した査読者による査読を行う。
- (3) 原著論文の投稿に際しては、事前に所属領域長の承認及び内容の確認を得て行う。
- (4) 当研究所の職員が学会誌に発表した研究論文は、抄録として漏れなく登載することとする。
- (5) 当所の国連大学生の研究成果は、「国連大学生研究成果」抄録として登載する。
- (6) 研究報告の発行回数は、年1回程度とする。
- (7) その他、ここに定められていない事項は編集委員会で決定する。

## 2 原稿の提出部数

- (1) 原著原稿は正1部を提出し、電子ファイルを併せて提出する。なお、図及び写真で電子化できないものは、正原稿とは別に原図1部を提出する。
- (2) 抄録原稿は原稿1部の他、論文集として図書室保存用の別刷り1部を別途提出する。
- (3) 「国連大学生研究成果」抄録原稿は原稿1部を提出する。
- (4) 最終原稿は、電子化ファイルを提出する。ただし、図表等が電子化されていない場合は、この限りではない。
- (5) 原著については、原稿、原稿の電子ファイルともに、著者、事務局双方でバックアップを保管するものとする。

## 3 抄録原稿の記載要領抄録の構成は、学会誌名、巻・号、頁、発行年、題名、著者名、著者所属、論文要旨(和)及びキーワードとする。

- (1) 題名と著者名は日本語及び外国語を併記する。
- (2) キーワードは、5個を限度とする。

なお、外国語で書かれたキーワードは、外国語の後に日本語を括弧して入れることとする。

## 4 「国連大学生研究成果」抄録原稿の記載要領抄録の構成は、題名、著者名、所属研究室名、アドバイザー名、研究期間及び成果の要旨とする。

## 5 投稿論文の記載要領

## (1) 論文の構成

ア 報文と技術報告の構成は、表紙（表題・著者名等を記載）、英文要旨、本文、図・写真及び表とし、本文は緒言（記述にあたっては緒言の文字は省略）、実験方法、実験結果、考察（実験結果及び考察としても可）、要約、文献とする。

イ 研究ノートの構成は、本文の実験方法、実験結果、考察等の構成区分見出しを必要とせず直接必要な事項の字句を見出しにしてもよい。

なお、その他の構成は報文と同様とする。

ウ 著者の所属名称を記載する。和文の場合は、1ページ目に著者の所属名称を日本語、英語の両方で記載する。英文の場合は、1ページ目に英語で、和文要旨内には日本語で記載する。

## (2) 原稿の枚数

原稿はA 4判横組み・縦置き(26字×23行=598字)で作成し、報文及び技術報告は図表を含め20枚(刷り上がり6頁)程度、研究ノートの原稿枚数は10枚(刷り上がり3頁)以内とする。

ただし、編集委員会で認めた場合はこの限りではない。

また、原稿には通し番号を付ける。

## (3) 文章及び文字

ア 文章は、ひらがな、常用漢字、現代仮名づかい、「である」調とし、できるだけ簡潔、平易に記述する。

イ 専門用語は、原則として文部省学術用語審議会編「学術用語集」による。略号または記号を用いるときは、最初に用いる箇所で正式の名称を記し、括弧内に略号や記号を示す。

ウ 本文中の物質名や術語などは学術用語集に基づいた名称を用い、分子式やアルファベット表記を用いることは避ける。外国の人名や会社名はアルファベット表記とするが、周知の術語になっているものはカタカナ書きとする。

エ 誤読、誤植のおそれのある文字、記号、字体は、黒鉛筆で原稿に適切な指示を書き入れる。

オ その他の文字、記号、物理量等の表記については、「日本食品科学工学会誌」投稿論文記載要領に準ずる。

## (4) 図表及び写真

ア 図と表は最小限にとどめ、同一内容のものはいずれか一方とする。図は写真印刷に適した鮮明なものを作成し、タイトルは活字で入れる。

イ 写真は原則として白黒で印刷する。アート紙、またはカラー写真を希望する場合は編集委員会に申し出る。

## (5) 文献

文献の記載法については、「日本食品科学工学会誌」投稿論文記載要領に準ずる。なお、引用文献は本文の最後の一括して番号順に列記し、本文中の該当人名または事項の右肩に上付き文字で<sup>1)2)</sup>のように通し番号を付ける。

## (6) 英文要旨

原稿は上下左右に余白をとり、ダブルスペースで、タイプまたはワープロにより印字する。語数は報文と技術報告は200語程度、研究ノートは100語程度とする。

(7) 英文の投稿論文記載要領は特に定めないが、上記和文論文の記載要領を参考に用紙の上下左右に余白をとり、ダブルスペースでタイプまたはワープロにより印字する。

なお、英文校閲は原則として著者の責任で行うものとする。

英文要旨には和文要旨を併せて記載する。

## 6 校正

著者校正は原則として再校までとする。校正の際の字句の書換え及び追加は認めない。校正は赤ペンを使用し、校正の約束ごとは原則として日本印刷学会の方式に従う。

## 7 体裁

(1) A 4判、本文2段組とする。

(2) 装丁、奥付、目次、題名、著者名、英文要旨、見出し等の体裁は、編集委員会で変更しない限り従前どおりとする。

論文の受付日および受理日を原稿欄外に記載する。

改正 平成21年5月28日

改正 平成21年12月28日

## 1 はじめに

この記載要領は投稿規程により、論文投稿に当たって原稿を執筆するさいの指針として作成したものである。執筆に当たっては投稿規程とともによく読んで、体裁の整った理解しやすい論文を作成するように努めていただきたい。

## 2 投稿論文

**2.1** 用紙は A 4 判とし、縦長に置き、上下左右に各 3 cm 程度の余白を設け、11 ポイント程度の字の大きさを 27 行 (＝702 字) を横書きする。

### 2.2 投稿論文の構成と提出部数

投稿論文の構成は、(1)原稿送状、(2)表紙、(3)英文要旨およびその和訳、(4)本文、(5)表、(6)図(写真を含む)、(7)図(写真を含む)の説明原稿とする。

提出部数は、3 部とする。

受付後、審査に入ってから訂正原稿の提出部数は正副 2 部でよい。

著者は投稿原稿の完全な控えを手元に保存する。なお審査の過程で変更があった場合は、それらの控えもすべて保存する。

## 3 原稿送状および原稿送付先

本要領の末尾に添付した様式にしたがって必要事項を記入して提出する。原稿は下記事務局あて送付する。

原稿送付先

〒305-8642

茨城県つくば市観音台 2-1-12

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

食品総合研究所内

社団法人日本食品科学工学会

TEL : 029-838-8116 FAX : 029-838-7153

## 4 表紙

**4.1** 表紙には **4.5** の例のように、和文で題名および著者名を書き、欄外見出し、題名、著者名、所属、キーワード(日本語)、脚注の順に書く。

**4.2** 欄外見出しは著者名(姓のみ、2 名の場合は併記し、3 名以上の場合は「筆頭著者の姓・他」とする)に続いて、題名を **15 字** 以内にまとめて書く。なお、欄外見出しは会誌の表紙題名としても使用される。

**4.3** 共著者の所属が筆頭著者のそれと異なる場合は、3 つまでは順番に共著者の氏名の右肩に「\*」「\*\*」「\*\*\*」を付け、4 つ以上の場合は \*<sup>1</sup>、\*<sup>2</sup>、\*<sup>3</sup>、\*<sup>4</sup>… とし所属(著者の正式な所属機関名)と対応させる。内容に関する質疑、別刷り請求等のための連絡先代表者を指定する場合は、当該氏

名に「§」を付け(「\*」等があればそれに続ける)、脚注と対応させる。

**4.4** 脚注には著者の所属機関の郵便番号と住所を書く。なお、連絡先代表者を指定した場合、「連絡先 (Corresponding author)」と書く(メールアドレスを付記してもよい)。

## 4.5 表紙記載例

(欄外見出し)

食品・他：麴菌および鶏卵の量と魚醤油の品質

醤油麴量と鶏卵添加量がイカおよびイワシ魚醤油の品質に及ぼす影響<sup>†</sup>

食品花子、深海潜太\*、水産勝尾\*<sup>§</sup>、

畜産育雄\*\*、農業宮子\*\*

独立行政法人機能食材研究所

\*太平洋大学農林水産学系

\*\*全国県農業畜産試験場

キーワード：5 語以内

……………〔脚注〕……………

〒929-0808 能登県いしる市薄口台 4-5-67

\*〒288-9999 西南県南総市黒潮岬 3-2-1

\*\*〒123-4567 全国県風見鶏市大豆が丘 5432-10

§連絡先 (Corresponding author), abcd@efg.hi.jk

## 5 英文要旨およびその和訳

**5.1** 英文要旨は報文および技術論文では、200 語程度とし、研究ノートおよび速報では 100 語程度とする。

**5.2** 下記 **5.4** の例のように、題名、次いで 3 行あけて著者名(名、姓の順とし、先頭文字のみ大文字とする)、所属機関名および住所、所在地、次に 1 行あけて要旨本文を書く。

**5.3** 英文要旨には研究の目的、方法、結果および結論を述べる。キーワードを 5 語以内で付ける。

## 5.4 英文要旨記載例

Effects of Concentrations of "Shoyu Koji" and Egg on Quality of Fish Sauces of Squid and Sardine

Hanako Shokuhin, Senta Fukami\*, Katsuo Suisan\*<sup>§</sup>, Ikuo Chikusan\*\* and Eiko Nogyo\*\*

National Functional Food Stuff Institute, 4-5-67 Usukuchidai, Ishiru, Noto 929-0808

\*Institution of Agriculture, Forestry and Fisheries, Taiheiyou University, 3-2-1 Kuroshio-misaki, Nansou, Seinan 288-9999

\*\*Zenkoku Prefectural Agricultural and Livestock Experiment Station, 5432-10 daizugaoka, kazamidori, Zenkoku 123-4567

Fish sauces were prepared, using Japanese squid and sardine caught in the sea near Oni-ga-shima island. The quality of fish sauces was studied by changing Shoyu Koji and Ukokkei-egg concentrations during fermentation.……

Keywords :

## 6 本文

### 6.1 本文の構成

#### 6.1.1 報文および技術論文

構成区分は原則として緒言（記述に当たっては「緒言」という見出し字句は用いない）、実験方法、実験結果、考察（「実験結果および考察」としてもよい）、要約、謝辞（必要な場合）、文献とする。記述に当たっては、構成区分の見出し字句の前後は1行ずつあげ、見出し字句は行の中央に書く。

構成区分中の大見出し、中見出しおよび小見出しは、それぞれ1, 2, 3, ……、(1), (2), (3), ……、i), ii), iii), ……のように順次区別する。

中見出しまでは見出し字句をつけ、改行して文章を書き出す。小見出しは見出し字句をつけ、改行して文章を書くことを原則とするが、見出し字句のあとに「:」をつけて改行しないで文章を続けてもよい。見出し字句の最後にピリオドはつけない。

#### 6.1.2 研究ノートおよび速報

構成区分見出しを必要とせず、緒言（記述に当たっては「緒言」という見出し字句は用いない）、大見出し以下の区別で記述する。大見出しの見出し字句は原則として、直接必要な事項の字句を見出しとする。要約は大見出しにより、文献のみは構成区分見出しとする。

### 6.2 原稿の書き方

#### 6.2.1 文章および文字

文章は平易かつ簡潔な「である」調とする。英字、数字は原則として半角とする。

#### 6.2.2 専門用語は原則として文部科学省学術用語審議会

編「学術用語集」による。略語又は記号を用いるときは、最初に用いる箇所で正式名称を書き、かっこ内に略語や記号を示す。

6.2.3 化合物名は原則としてIUPAC（国際純正応用化学連合）命名法に従い日本語で書く。

本文中では化学式を用いず、名称を用いて書く。長い化合物名の場合は、6.2.2に準じて略語を用いてもよい。また、化合物の名称として、一般に使用されるものを用いてもよい。

6.2.4 外国の人名、会社名などはアルファベット表記とする。ただし、例のように、周知の術語となっている人名はカタカナ書きでもよい。人名には敬称をつけない。

〔例〕 ケルダール分解法、ソモギー法、モール法、フェーリング液など

6.2.5 本文中に図、表を引用する場合、図、表が英文で書かれている場合はFig. 1, Table 1とし、和文で書かれている場合は図1, 表1とする。挿入位置を原稿用紙の右余白に Fig. 1, Table 1, 図1, 表1 のように指示する。

6.2.6 物理量の記号および使用上の規約は、なるべくIUPACの勧告に従う。付記1および「物理化学で用いられる量・単位・記号」(社)日本化学会標準化専門委員会監修、朽津耕三訳、(講談社サイエンティフィック、東京)(1991)、要約版は、化学と工業、42(3)、498-506(1989)。以下「IUPAC手引き」と略称)を参照する。

6.2.7 単位は付記2に準拠する。

6.2.8 動植物名は「文部科学省学術用語審議会編：学術用語集-動物編、植物編-大日本図書」「園芸学会編：園芸作物名編-養賢堂」などを参照し、カタカナ書きとする。学名は例1のように属（第1字目を大文字とする）、種、変種、亜変種の部分にイタリック書体とする。

〔例1〕 リンゴ→*Malus domestica* Borkh.

ウンシュウミカン→*Citrus unshiu* Marc.

動植物体の加工品は〔例2〕のように原則としてひらがなまたは漢字を用いる。

〔例2〕 コムギ→こむぎ粉、小麦粉

サケ→塩さけ

6.2.9 微生物の名称および用語については「日本細菌学会用語委員会編：最新版英和和英微生物学用語集（菜根出版、東京都千代田区平河町1-8-13 和田ビル）」などによる。また微生物の学名は、例のようにイタリック書体の印刷指定記号（付記5参照）をつける。

〔例〕 微生物の属名のみを記載する場合

*Aspergillus* sp.

属・種名を記載する場合

*Aspergillus oryzae*

亜種・変種などを記載する場合

*Bacillus cereus* var. *mycoides*

特定の菌株などを記載する場合

*Escherichia coli* K-12

**6.2.10** 酵素の分離精製、諸性質の解明および応用に関する論文では、対象酵素の酵素番号および系統名を必要箇所に記述する。酵素番号および系統名は国際生化学連合(I.U.B.)酵素委員会報告“Enzyme Nomenclature Recommendations (1984) of the Nomenclature Committee of the International Union of Biochemistry, Academic Press (1984)”に準拠する。

〔例1〕 グルコースイソメラーゼ (E.C. 5.3.1.5, D-Xylose ketol-isomerase)

論文で用いている酵素名が系統名と異なることから、酵素番号と系統名を記述する。

〔例2〕 トリプシン (E.C. 3.4.21.4)

論文で用いている酵素名が系統名と同一のため、酵素番号だけを記述する。

**6.2.11** 数および数式については、付記および **6.2.6** の「IUPAC 手引き」を参照する。

**6.2.12** 引用文献番号は本文中の該当箇所に必要なまず目を取り、「<sup>1)2)</sup>、<sup>2)~3)</sup>」のように上付きで指示する。文献番号は引用順に通し番号とし、本文の最後に「文献」としてまとめて書く。文献の書き方は付記4に従う。引用する文献は直接参照したものに限る。

**6.2.13** 本文中の脚注は原則として用いないが、やむを得ない場合には本文中の項目の右肩に\*、\*\*を用い、例のように書く。

〔例〕

(本文) ○○○○○○\*, ○○○○ .....

脚 注	{	* ○○○○○○○○ .....
		○○○○○ .....
		○○○○○ .....

(本文) ○○○○○○ .....

**6.2.14** 印刷上の活字の指定が必要な場合は、付記5に準拠し黒鉛筆で指示する。

**6.2.15** 本文原稿は欄外にページをつける。

## 7 図、写真および表

**7.1** 図と表は最小限にとどめ、同一内容のものはいずれか一方とする。

**7.2** 図・写真と表は、A4サイズに原則ひとつずつとする。英文で図と表を作成する場合は、本文と独立して内容が理解できるような説明文を簡潔に書く。

### 7.3 図および写真

**7.3.1** 全ての図は、同一縮尺となるように調整し文字も印刷されたときを考慮し、大きさに気を付ける。印刷された文字の縦長が1.5 mm以下とならないようにする。グラフの縦軸の説明文字や物理量/単位は下方から上方へ向かって、横軸のそれは左から右へ横書きとする(ただし、

目盛の数字はこの限りでない)。

カラーの図の印刷料金は、付表1による。

**7.3.2** 写真は原図に準じ縮小して製版するので、A4判厚手の上質白紙を台紙にして貼りつける。デジタルデータの場合はA4判に出力する。写真印刷は原則として白黒写真とするが、原写真は白黒、カラーのいずれでもよい。カラー印刷を必要とする場合はカラー写真を用い、写真貼り付台紙左上に「カラー印刷」と記入する。原写真の右下隅には筆頭者の姓を記入する。

### 7.4 表

**7.4.1** 表は原則としてA4判を用いる。

**7.4.2** 表の題名は、表1又はTable 1として表の上部に、説明などの注記は下部に書く。英文の場合、表題および表中の語句は最初の文字を大文字とし、以下は小文字とする。

著者の筆頭者の姓を表の右下隅に黒鉛筆で記入する。

## 8 掲載料

掲載料は付表2による

## 9 別刷

別刷の希望部数は原稿送状に明記する。

別刷料金は付表3による。

## 10 その他

刷り上がり1頁は、本文の場合、702字詰め用の紙3枚、図表原稿の場合、4枚に相当する。

著者校正は一度だけ行う。英文要旨および英文で書かれた図表については、英文校閲をすませているので、これに従う。

### 〔付記1〕 物理量とその記号

**1.1** 物理量の記号は、論文ごとに定義を明示してから用いる。記号はラテン文字又はギリシャ文字の1字(ただしpHは例外)とし、必要な場合に添字(ラテン文字、ギリシャ文字、アラビア数字、ローマ数字から選ぶ)、その他の記号をつけることができる。

**1.2** 物理量の記号は、イタリック体(斜体)で印刷するが、添字についてはそれ自体が物理量を表わすときはイタリック体とし、そうでない場合はローマン体(立体)とする。

**1.3** 物理量の値は、数値と単位の積である。物理量およびそれを表す記号は、特定の単位の採用を意味するものであってはいけない。(例:“長さを*l*とする”は正しいが、“cmで測った長さを*l*とする”は誤りである)

**1.4** 物理量の記号は6.2.6の「IUPAC手引き」の2章に記載されているものについては、できるだけこれに準拠する。記載されていない物理量の記号は、1.2の原則に従ってなるべく慣用されているものを用いる。

「IUPAC手引き」の2章から抜粋した記号を以下に示す。

(1) 空間と時間		
長さ	length	$l$
高さ	height	$h$
半径	radius	$r$
直径	diameter	$d$
面積	area	$A, A_s, S$
体積	volume	$V$
時間	time	$t$
速度	velocity	$v, u, w,$ $c$

(2) 力学		
質量	mass	$m$
密度	(mass) density	$\rho$
相対密度	relative density	$d$
力	force	$F$
圧力	pressure	$p, P$
重量	weight	$G, W$
運動エネルギー	kinetic energy	$E_k, T, K$
弾性率	modulus of elasticity	$E$
粘性率・粘度	viscosity	$\eta, \mu$
(3) 一般化学		
要素粒子の数	number of entities	$N$
物質質量	amount of substance	$n$
モル質量	molar mass	$M$
相対分子質量	relative molar mass,	$Mr$
(分子量)	(molecular weight)	
相対原子質量	relative atomic mass,	$Ar$
(原子量)	(atomic weight)	
(溶質) B のモル濃度	amount (of substance)	
	concentration of B,	$c_B, [B]$
(略して B の濃度)	(concentration of B)	
解離度	degree of dissociation	$\alpha$

(4) 熱力学		
熱	heat	$q, Q$
仕事	work	$w, W$
熱力学温度	thermodynamic temperature	$T$
熱容量	heat capacity	$C_p, C_v$
浸透圧	osmotic pressure	$\Pi$
(相対) 活量 (relative) activity		$a$
平衡定数	equilibrium constant	$K$
(5) 電気と磁気		
電荷	electric charge	$Q$
電流	electric current	$I$
電位	electric potential	$V$
電気容量	capacitance	$C$
誘電率	permittivity	$\varepsilon$
抵抗	resistance	$R$
抵抗率	resistivity	$\rho$

(6) 電磁放射		
波長	wavelength	$\lambda$
放射エネルギー	radiant energy	$Q$
透過率	transmittance, transmission factor	$\tau$
吸光率	absorptance, absorption factor	$\alpha, R$
吸光度 (常用対数) (decadic) absorbance		$A$
吸光係数, 吸収係数	absorption coefficient	$\varepsilon$
モル吸光係数 (常用対数) molar (decadic)		
	absorption coefficient	

## 〔付記 2〕 単位および単位記号の書き方

**2.1** 現在, 単位は国際的に SI (国際単位系を表す記号 (symbol)) であって, 略号ではないので, どの国語でも SI と書く) 単位に統一されつつあるが (参考文献 1) を参照, ここでは SI および慣用されている単位の主なものを記載した. 論文の作成に当たっては, ここに記載した単位を選んで使用する. なお, ここに記載してない特定の量を表す単位については, 著者が論文中に定義を明確に示してから用いる.

**2.2** 単位記号はローマン体 (立体) で印刷し, 複数を意味する場合でも形を変えてはいけぬ. 又, 文末にくるとき以外はピリオドをつけない.

〔例〕 5 cm とし, 5 cms, 5 cm., 5 cms. とはしない.

**2.3** 接頭語と単位記号の間にはスペースをおかない.

**2.4** 2つの単位の積を示すときはセンターピリオドをおく.

〔例〕 N·m とし Nm としない.

**2.5** 2つの単位の商はスラッシュ (/) 又は割算の横線 (—), あるいは<sup>-1</sup>で示す. /は決して2回以上使用しない.

〔例〕 m/s,  $\frac{m}{s}$ , m·s<sup>-1</sup>

J/(K·mol) または J·K<sup>-1</sup>·mol<sup>-1</sup> とし, J/K/mol としない.

## 2.6 SI 接頭語

大きさ	接頭語	記号	大きさ	接頭語	記号
10 <sup>-1</sup>	デシ	d	10	デカ	da
10 <sup>-2</sup>	センチ	c	10 <sup>2</sup>	ヘクト	h
10 <sup>-3</sup>	ミリ	m	10 <sup>3</sup>	キロ	k
10 <sup>-6</sup>	マイクロ	$\mu$	10 <sup>6</sup>	メガ	M
10 <sup>-9</sup>	ナノ	n	10 <sup>9</sup>	ギガ	G
10 <sup>-12</sup>	ピコ	p	10 <sup>12</sup>	テラ	T
10 <sup>-15</sup>	フェムト	f	10 <sup>15</sup>	ペタ	P
10 <sup>-18</sup>	アット	a	10 <sup>18</sup>	エクサ	E

## 2.7 単位と単位記号の表

表中の \* 印は SI 基本単位を示し, \*\* は SI 組立単位で固有の名称と記号をもつものを示した.

(参考文献)

1) 国際単位系 (SI) - グローバル化社会の共通ルール - 日本語版国際文書第 7 版, 日本規格協会発行 (1998)

単位と単位記号の表

量	単位の名称 (SI 単位の定義)	単位記号	
長	さ	メートル (meter)*	m
		マイクロメートル (micro meter)	μm
		ナノメートル (nano meter)	nm
面	積	平方メートル (square meter)	m <sup>2</sup>
		アール (are)	a
		ヘクタール (hectare)	ha
		(土地面積に限定)	
体	積	立方メートル (cubic meter)	m <sup>3</sup>
		リットル (liter), (dm <sup>3</sup> )	l, L
		キロリットル (kiloliter), (m <sup>3</sup> )	kl, kL
		ミリリットル (milliliter), (cm <sup>3</sup> )	ml, mL
		マイクロリットル (microliter), (mm <sup>3</sup> )	μl, μL
平 面	角	ラジアン (radian)**	rad
		度 (degree)	°
		分 (minute)	'
		秒 (second)	"
立 体	角	ステラジアン (steradian)**	sr
		秒 (second)*	s
		分 (minute), (60s)	min
		時 (hour), (3600s)	h
		日 (day), (86400s)	d
周 波	数	ヘルツ (hertz)**, (s <sup>-1</sup> )	Hz
		メガヘルツ (megahertz)	MHz
回 転	数	回毎分 (revolutions per minute)	rpm
重	さ	キログラム (kilogram)*	kg
		グラム (gram)	g
		ミリグラム (milligram)	mg
		マイクログラム (microgram)	μg
		トン (ton), (Mg)	t
物 質	量	モル (mole) *	mol
		(g 分子, g 原子, g イオン, 「当量」などの語は SI 単位では廃止された)	
濃	度	・モル濃度 (molar concentration または molarity……1 L の溶液の中に含まれる溶質のモル数) (規定濃度 N は用いない)	mol/l, mol/L
		・パーセント (percent) … (溶液中の 2 つの量の比) ×100, を意味する. パーセントを使う時は, 次のように, 重量と重量の比か, 容量と容量の比かを明確にして用いる.	%
		・重量パーセント	% (w/w)
		・容量パーセント	% (v/v)
		・(重量/容量) パーセント	% (w/v)
		・(容量/重量) パーセント	% (v/w)
		・溶液 100 g 当たりの溶質のミリグラム	mg/100 g
		・溶液 100 mL 当たりの溶質のミリグラム (mg% は用いない)	mg/100ml, mg/100mL
		・parts per million	ppm
		・parts per billion	ppb
・parts per trillion	ppt		
		(何の比率か明示する)	

量	単位の名称 (SI 単位の定義)	単位記号
力	ニュートン (newton)**, ( $\text{kg} \cdot \text{m} \cdot \text{s}^{-2}$ )	N
圧 力・応 力	パスカル (pascal)**, ( $\text{N} \cdot \text{m}^{-2}$ )	Pa
粘 度	パスカル秒	Pa · s
エネルギー・	ジュール (joule)**, ( $\text{kg} \cdot \text{m}^2 \cdot \text{s}^{-2}$ )	J
熱 量	カロリー (calorie), (4.184 J) (栄養・代謝に限定)	cal
温 度	ケルビン (Kelvin)*	K
	摂氏 (Celsius), ( $0^\circ\text{C} = 273.15\text{K}$ )	$^\circ\text{C}$
電 流	アンペア (ampere)*	A
電荷・電気量	クーロン (coulomb), ( $\text{s} \cdot \text{A}$ )**	C
電位差, 電位, 起電力}	ボルト (volt), ( $\text{J} \cdot \text{A}^{-1} \cdot \text{s}^{-1}$ )**	V
静電容量	ファラド (farad), ( $\text{A} \cdot \text{s} \cdot \text{V}^{-1}$ )**	F
電気抵抗	オーム (ohm), ( $\text{V} \cdot \text{A}^{-1}$ )**	$\Omega$
工率, 放射束	ワット (watt)**	W
インダクタンス	ヘンリー (henry), ( $\text{V} \cdot \text{A}^{-1} \cdot \text{s}$ )**	H
コンダクタンス	ジーメンス (siemens), ( $\text{A} \cdot \text{V}^{-1} = \Omega^{-1}$ )**	S
光 度	カンデラ (candela)*	cd
光 束	ルーメン (lumen), ( $\text{cd} \cdot \text{sr}$ )**	lm
照 度	ルクス (lux), ( $\text{m}^{-2} \cdot \text{cd} \cdot \text{sr}$ )**	lx
光 の 波 長	マイクロメートル (micrometer)	$\mu\text{m}$
	ナノメートル (nanometer)	nm
放射能, 放射線	ベクレル (becquerel, 放射性核種の放射能)**, ( $\text{s}^{-1}$ )	Bq
	グレイ (gray, 吸収線量)**, ( $\text{m}^2 \cdot \text{s}^{-2} (= \text{J} \cdot \text{kg}^{-1})$ )	Gy
	カウント毎分 (counts per minute)	cpm
	シーベルト (sievert ; 線量当量)**	Sv

### 【付記 3】 数と数式

3.1 小数点は 0.101 とし, . 101 とはしない。

3.2 けた数の区切りは 5 530 000 とし, 5,530.000 としない。

3.3 積は  $101.325 \times 10^8$  とし  $101.325 \cdot 10^8$  としない。

3.4 範囲を示す場合は  $(1.0 \sim 1.5) \times 10^8$  又は  $(25 \pm 0.5)$   $^\circ\text{C}$  と書く。

3.5 数学的演算子 (d,  $\Delta$  など) および数学的定数 (e,  $\pi$ , i など) は, ローマン体で印刷する。

3.6 商を表わす斜線 (/) を用いるとき, 混同を避けるためかっこを必要とする。

・  $a+b/c+d (=a+bc^{-1}+d$  と混同する) とせずに  $(a+b) / (c+d)$  とする。

・  $(a/b) / c$  は  $a/b/c$  としてはならない。

3.7 二重の添字になる書き方はできる限り避ける。

### 【付記 4】 引用文献の記載法

#### 4.1 著者名

和文著者名は, 姓名共に書き, 英文著者名は姓を先にし, ついで first および middle name のイニシャルを書く。著者が複数の場合は, 各著者名の間に「,」を入れる。ただし,

英文の場合, 最後の名前の前は and のみを入れる。

#### 4.2 論文題名

引用論文の題名を書く。

#### 4.3 雑誌名

主な雑誌省略名を 4.9 に示した。これ以外の和文雑誌名は原則として略さない。欧文雑誌の省略名は原則として最近の Chemical Abstracts に従うこと。

本誌を引用する時は日食工誌, 第 42 巻以降は食科工とする。同じ雑誌が連続して引用される場合も“同上”, “ibid.” は用いないで繰返して書く。

#### 4.4 巻数, 頁数, 発行年

巻数はゴシック体で書く。巻数を表記しない雑誌では, 巻数の位置に発行年を西暦で書く。頁数は引用論文の最初と最後の頁数を一で結んで書き, 次いで発行年を ( ) で書く。

#### 4.5 単行本の場合

著者名, 章のタイトル, 書名, 版数, 巻数, 編集者名, 出版社, 発行地, 頁数 (最初と最後), 発行年の順に書く。

#### 4.6 特許の場合

特許権者または出願者名, 題名, 特許番号または公告番号, 年月日の順に書く。

## 4.7 学会講演要旨集等の場合

学会要旨等は原則として引用しない。やむを得ず引用する場合は、講演者名、題名、学会大会資料名、頁数（複数頁の場合は最初と最後の頁数をーで結ぶ）、開催地、開催年の順に書く。

## 4.8 文献記載例

- 1) 三ヶ日温子, 薩摩橙大, 温州みかんのカロチノイドに関する研究 (第2報) 近赤外線照射による温州ミカン果皮カロチノイドの変質, 食科工, **48**, 123-456 (2001).
- 2) Yoshida, K., Kirimura, O. and Danna, G., Change in the amount of SDS-insoluble membrane components by oxidants during breadmaking. *J. Food Sci. Technol. Res.*, **9**, 99-999 (2001).
- 3) 佐藤昌康, 味の知覚, 「味覚の生理学」, 第1版 (朝倉書店, 東京), pp. 1-22 (1991).
- 4) Mendel, D.S., Gene and chromosome. In "Introduction to quantitative genetics," 1st ed. (Ronald. Press. Co.), pp. 9-99 (1999).
- 5) 三井清司, 色素分析一般, 「植物色素-実験・研究への手引き」, 第2版, 林孝三編, (養賢堂, 東京), pp. 93-150 (1988).
- 6) Yokota, T., Brassinosteroids. In "Comprehensive natural products chemistry," Vol. 8, eds. Barton, D.H.R., Nakanishi, K. and Meth-Cohn, O. (Vol. ed., Mori, K.), Pergamon, pp. 99-107 (1999).
- 7) 藤山京司, 早乙女成弘, 上島輝光, 小谷悠久, 浸透圧の測定方法及び装置, 特許第2802344号 (2001. 1. 11).
- 8) 深海潜太, 食品花子, 水産勝尾, 畜産育雄, 東京湾雑魚の魚種および異なる醤油麹が魚醤油の品質と成分に及ぼす影響, 日本食品科学工学会第48回大会講演要旨集, p. 47, 香川 (2001).

## 4.9 雑誌略名表

日本栄養・食糧学会誌	薬学雑誌
園芸学会雑誌	日本化学会誌
生物工学会誌	日本農芸化学会誌
日本家政学会誌 (家政学雑誌)	日本細菌学雑誌
日本食品工業学会誌	日本作物学会記事
日本食品科学工学会誌	日本畜産学会報
日本水産学会誌	食品衛生学雑誌
日本醸造協会誌	日本調理科学会誌
日本応用糖質科学会	

その他の雑誌は原則として略さない

(例) ビタミン	缶詰時報
分析化学	高分子化学
調味科学	味噌の科学と技術
衛生化学	油化学

食品照射 生化学  
化学と生物 食品衛生研究  
蛋白質・核酸・酵素

以下の雑誌はボールド部分のみ残し省略とした後はピリオドを打ち, 他を略す.

**Agricultural and Biological Chemistry**  
**Analytical Biochemistry**  
**Analytical Chemistry**  
**Applied and Environmental Microbiology**  
**Archives of Biochemistry and Biophysics**  
**Bakers Digest**  
**Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry**  
**Biochemical and Biophysical Research Communications**  
**The Biochemical Journal**  
**Biochemistry**  
**Biochimica et Biophysica Acta**  
**Biotechnology and Bioengineering**  
**Carbohydrate Research**  
**Cereal Chemistry**  
**European Journal of Biochemistry**  
**FEBS Letters**  
**Federation Proceedings**  
**Food Science and Technology International, Tokyo**  
**Food Science and Technology Research**  
**Food Technology**  
**Food Technology in Australia**  
**HortScience**  
**International Journal of Food Science and Technology**  
**Journal of Agricultural and Food Chemistry**  
**The Journal of Applied Bacteriology**  
**Journal of Bacteriology**  
**The Journal of Biochemistry**  
**The Journal of Biological Chemistry**  
**The Journal of Cell Biology**  
**Journal of Chromatographic Science**  
**Journal of Chromatography**  
**Journal of Dairy Science**  
**Journal of Fermentation and Bioengineering**  
**Journal of Food Science**  
**Journal of Food Technology**  
**Journal of General Microbiology**  
**Journal of Lipid Research**  
**Journal of Molecular Biology**  
**Journal of Nutrition**  
**Journal of Stored Products Research**  
**Journal of Texture Studies**  
**Journal of the American Chemical Society**

*Journal of the American Oil Chemists Society*

*Journal of the American Society for Horticultural Science*

*Journal of the Association of Official Analytical Chemists*

*Journal of the Science of Food and Agriculture*

**Lipids**

**Nature**

**Phytochemistry**

**Plant and Cell Physiology**

**Plant Physiology**

*The Rice Journal*

**Science**

*Zeitschrift für Lebensmittel - Untersuchung und Forschung*

#### 〔付記5〕印刷上の活字の指示

##### 5.1 原則

誤読や、英字で誤植のおそれがある場合には、原稿に黒鉛筆で適切な指示を加える必要がある。以下にその例を示す。

##### 5.2 指示の例

空白は、□で指示する。

例：12.3□mA□s

書体は次のように指示する。

ローマン体スモールキャピタル 下に二重直線

例：Analytical → ANALYTICAL

ボールド体（太文字） 下に波線

例：Analytical → **Analytical**

分析化学 → 分析化学

イタリック体 下に直線

例：Analytical → *Analytical*

ボールドイタリック体 下に直線と波線

例：Analytical → ***Analytical***

ギリシャ文字は、上にギと書く。イタリック体のときは下に直線を引く。

例： $\overset{\text{ギ}}{\Sigma} = \overset{\text{ギ}}{\Sigma} \underset{\text{ギ}}{\nu}$

特別な理由のない限り、立体のギリシャ文字は次のものに限る。

$\Gamma, \Delta, \alpha, \beta, \gamma, \delta, \mu, \Pi, \pi, \Sigma, \Omega$

添字は、上付きを $\vee$ 、下付きを $\wedge$ で示す。添字の前後関係を明瞭に示すよう注意しなければならない。

上付き又は下付き記号としては、原則として次のものを用いることができる。

マル  
 $\cdot, /, ", \infty, *$   
 $+, -, \dagger, \ddagger, \Phi$   
ダガー      ダブルダガー      プリムソル

## 付 表

付表1 カラー（原色版）印刷料金（円）

カラー印刷
1頁 80 000 円

（備考）

- ・2頁以上で表裏印刷とならない場合、追加1頁当たり 40 000 円
- ・表裏印刷となる場合は、1枚2頁で2×80 000 円

付表2 掲 載 料 (円)

頁 数	報文, 技術論文	研究ノート, 速報
2以下	5 000	5 000
3	5 000	17 000
4	5 000	29 000
5	5 000	41 000
6	17 000	*
7	29 000	
	*	

\*以後1頁加えるごとに12 000 円を加算する

付表3 別刷価格表（抜粋） (円)

	50部（表紙なし）	100部（〃）	150部（〃）	200部（〃）
2頁	2 800	3 800	5 300	6 800
4頁	3 800	5 300	7 300	8 800
6頁	4 800	6 800	9 300	10 800
8頁	5 800	8 300	11 300	12 800
表紙付き加算	3 000	3 800	4 700	5 600

（注）一件につき手数料 800 円含む

カラー頁を含む別刷りの場合は、1部につき 40 円を加算する

付表4 英文校閲料（円）

1編	2 650
----	-------